

日本留学海外拠点連携推進事業 中間評価所見

採択機関（担当地域）名：岡山大学（東南アジア）

○ 実施委員会による評価を踏まえた所見

1. 全体の進捗状況

コロナ禍において、早期に活動のオンライン化に踏み切り、ミャンマーにおける情勢不安の対策もオンラインコンテンツの充実化によって対応した。本事業への大学としてのバックアップも機能していることから、十分にオールジャパンレベルの活動が期待できる。ミャンマーにおける情勢不安等、コントロールできない外的要因がある中で、それらが活動に与える影響分析～対策が重要となる。

2. 成果指標（※）の進捗状況

令和元年度と比べ、令和2年度は制限された環境下での様々な工夫がみられた。コロナ禍で Web サイトをリニューアルし、SNS での調査情報の発信・情報収集をおこなっている。情報収集の実施はされている一方で、収集された情報の分析、分類結果や有益情報から次の有効施策への具体的なアクションの検討も必要である。

各種セミナー及び留学相談のようなマス向けのイベントから個に焦点を絞り、きめ細やかな対応につなげていく流れは大きな効果が期待できる取組みと理解できる。他方、必ずしも関心の高さ＝優秀学生ではないため、優秀学生の絞り込みについての工夫も期待したい。

ミャンマーでの帰国留学生の同窓会組織との連携行われている一方で、指標としての帰国留学生との活動における協力の深化レベルについては確認ができない。最終目的である留学実績につながる内容での実施が望ましい。

3. 実施体制の構築・活動状況

他の拠点及び国内大学との連携、協力（イベント、セミナー、産学官連携プラットフォーム）を積極的に行っている。制限された環境下で、各国の状況、ニーズに合わせ、関係機関、大学等とのネットワークを活用した取り組み内容の工夫がみられる。

コロナ禍や現地情勢の悪化（ミャンマー）にも拘らず、それを逆手にとって積極的に活動しており、またコロナ禍による日本人スタッフの帰国後も現地スタッフと密接に連携しながら、計画を実行に移しており、評価できる。

4. 今後の実施方針についての検討状況

活動をオンラインに切り替えて大きな成果を挙げているので、その問題点も提起し、今後のオンラインを活かした活動の推進に期待したい。オールジャパンの体制構築を視野に現在ある活動を形成している点は評価できる。また、事業終了後の現地拠点について、オールジャパンによる共同利用を想定しているが、人件費も含め、具体的にどのように拠点を維持、運営するか検討を要する。

※ 実施計画書における成果指標①「留学に関する情報収集・発信（既存機能の更なる強化）」、成果指標②「優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進」、成果指標③「帰国留学生とのネットワーク構築及び広報・リクルーティング活動における協力深化」